



ゴリラの親子

天の声を聞いて、折る — 折り紙に捧げた生涯・ 吉澤章の創作世界

一枚の紙から生まれる奇跡
吉澤章 創作折り紙の世界
2014.7.12[土]—9.28[日]



きりん

世界にORIGAMIの名を広めた創作折り紙作家・吉澤章(明治44・1911～平成17・2005年)。栃木県の農家に生まれ、4歳の時、近所のお姉さんが舟を折ってくれたのが折り紙との出会いでした。その舟は壊れてしまったそうですが、一枚の紙が立体に生まれ変わる折り紙に心を惹かれたといいます。後に鉄工所で働くようになって

からも折り紙の研究を続け、昭和27(1952)年『アサヒグラフ』で作品が紹介されたのを糸口に、3年後にはオランダのアムステルダム市立美術館で初の海外個展が開催されました。それは紙を素材とした新しい造形芸術と評価され、ヨーロッパの国々に、さらに南北アメリカから世界の国々へと伝播して行きました。また、日本の文化を世界に紹介するために、外務



青虫

省及び国際交流基金から各国へ派遣され、展示や講習を行いました。優しい象の親子、表情豊かなゴリラ、恐竜ティラノサウルスなど様々な作品の中でも、吉澤章は「折り紙が上手になるには、よく観察すること」と言い、小さな蟻や蟬などの昆虫類を作るのには、生きたモデルを実際に飼って観察しながら創作しました。また、喜びや悲しみ、怒り、淋しさなどの感情を表した様々な顔、身体の動作を舞や体操に表現した作品もあり、昔話や星座の物語や年中行事など、吉澤章の折り紙は具象から抽象まで実に幅広いテーマを表現しています。

吉澤章は、自然界をテーマにする場合、モデルそのものの色を表現することが良いと常に言っていました。また、モデルをよく観察することによって、「自然界の法則性」を知ることが大切であるとも言い、折り紙は数学であり、ひいては幾何学でもあり、科学そのものと提唱しました。さらに、作品は情緒を伴っていると。「神様に、折り紙を折ることを

この手に許して頂けた」とかつて吉澤章は言いました。折り紙は折りと同じとも言いました。折り紙を通して見た、物事の「真実」、それが吉澤章にとって天の声であり、生命ある作品の源です。この展覧会で、吉澤章が日本に、世界に遺したORIGAMI文化の大きな足跡をあらためて見ていただきたいと思います。(学芸グループ長 坪井則子)



白鳥の親とひな



ライラック ニュージランドレッド

写真提供：朝日新聞社(白鳥の親とひなを除く)

ミュージアムショップ

さんしんギャラリー善の展示作家が
てがけたステキな作品です!

小枝真人作 湯呑み 各7,560円(税込)
※絵柄は変更する可能性があります

ソロルファクトリー
ペパモキット各種
540円(税込)

夏の 新商品

山壽杉本商店
アイスティー緑茶
670円(税込)

麻素材・豆団扇
各702円(税込)

プレゼントコーナー

※抽選で2名様に「フ」マークの品を差し上げます。「プレゼントコーナー応募」、ご住所、お名前、電話番号、隆泉の感想と隆泉に掲載したい一言コメントを明記の上、佐野美術館「隆泉」係まで郵便かFaxでお送りください。一言コメントのテーマは「一生の間にやってみたいこと」です。
しめきり：2014年8月15日(消印有効)
・当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。
・いただいた個人情報はプレゼントの発送以外に使用いたしません。

紙のからくり カミカラコレクション

2,052円(税込)

絵本『いぬのはなし』

横井山泰作
2,500円(税込)

※作家商品とペーパークラフトは「吉澤章 創作折り紙の世界」展覧会中(7/12～9/28)のみの販売です。